

# システム開発部門 Windows、今後の動向。

## Windows XPのサポートが 2014年4月8日で終了します。

サポートが終了するとセキュリティ更新プログラム (Windows Update) が提供されなくなり、重大な脆弱性が発見されても修正する事が出来ず、無防備のままパソコンを使用する事になります。現在Windows XPを利用している方はサポート終了日までにWindowsのアップグレードを考える必要性が出て来ます。

Windows 7や新しく発売されるWindows 8が選択肢になると思いますが、32ビット版と64ビット版どちらを購入すれば良いのか頭を悩ませる事になると思います。

パソコンは半導体技術等の向上により安くて高性能なものへと年々進化しています。メモリ容量も8GB、16GBを搭載するパソコンも珍しくありません。



ここで問題となるのがWindowsのエディションです。

32ビット版のWindowsではいくらメモリを搭載しても3GB前後しか扱う事が出来ません。(理論上は4GBまでですが実際に扱える容量は3GB前後)

3GB以上のメモリを扱えるようにするには64ビット版のWindowsを使う必要があります。

しかし、今までWindows XPで使用してきたソフトウェアは32ビット版のプログラムであり、64ビット版のWindows上で動作しない可能性があります。

プリンタ等の周辺機器も同様に64ビット版のドライバが提供されていない場合は利用する事が出来なくなります。長く使っている古い周辺機器をそのまま使いたい場合は注意が必要です。

では、64ビット版の最大のメリットである「扱えるメモリ容量が多くなる」とパソコンの動作はどう変わのでしょうか？

図書館を例にしてみましょう。図書館の本棚をハードディスク、机の大きさをメモリに置き換えて説明します。

調べ物をする時は本棚へ行って関連書籍を探し、机の上に資料として置きます。机が狭いと置ける資料の数が少なく、新しい資料を開きたい場合は他の資料を一度本棚に戻し、新しい資料を持ってきて机に置く動作が必要になります。

調べ物が多くなれば多くなるほど、本棚と机を行き来する回数が増えますので効率は悪くなります。

机が広いと沢山の資料を置く事が出来るので本棚への行き来が減って効率が良くなります。また大きな地図や図面を広げる場合も見やすくなります。

パソコンのハードディスクがガリガリと音を立てて動作が鈍くなる場合がありますが、これはメモリ容量が足りずハードディスクをメモリ代わりに使うための作業に処理能力を奪われてしまうからです。

メモリはハードディスクに比べて非常に高速であるため、なるべくメモリ上に必要なデータを置いておく方が高速に処理する事が出来るのです。

また、ソフトウェアをいくつか同時に使用する場合もメモリ容量が多いほどストレスなく使用出来ます。Windowsをアップグレードする場合やパソコンを買い換える場合、まず自分の使用用途は何かを考えてみると良いでしょう。

ゲーム、3DCG、CAD、データベース、ビデオや動画の編集



など、扱うデータ容量が多いソフトを利用する場合は、メモリが多いほど快適に動作させる事が出来ます。

インターネット、メール、年賀状の作成程度であれば、メモリの容量はさほど必要ありません。前者であればメモリ容量の多いパソコンと64ビット版Windows、後者であれば今まで使用してきたソフトや周辺機器が流用出来る32ビット版Windowsを選択すると良いと思います。

Windowsの登場で16ビットの時代から瞬く間に32ビットの時代へと変わりました。近年パソコンのスペック向上により64ビットの時代になろうとしています。

MicrosoftもWindows Vista発売と同時に64ビット版への移行を推奨しています。

ソフトウェアや周辺機器も徐々に64ビット版へ対応してきています。64ビット版が当たり前になる時代はすぐそこまで来ています。

